

新たなスタートにあたって

特定非営利活動法人 集めて使うリサイクル協会

代表理事 和田 志津子

設立して6年、やっと特定非営利活動法人 集めて使うリサイクル協会が誕生いたしました。この4月より新たなスタートです。

当協会は「資源循環型社会の構築に寄与し、持続可能な社会の発展に貢献すること」をテーマに活動してきましたが、今まで以上に社会的に責任ある立場で活動できる組織となり、事業の基盤整備も進んできました。これもひとえに、会員の皆様方のご支援の賜物と厚く御礼申し上げます。

さて、容器包装リサイクル法が施行されて10年目を迎える平成17年度に向け、見直しの検討が進んでいます。企業の方々にとって今年は重要な1年になるものと思われま

す。世界各国は、環境を守るために数十年にわたってさまざまな活動をしてきましたが、なかなか思うような成果を上げることができず、環境はますます悪くなるばかりであり、そこに登場してきたのがEPR（拡大生産者責任）です。ご存じのように、OECD（経済協力開発機構）はEPRについて「製品に対する生産者責任を製品のリサイクルの使用後段階まで拡大すること」と定義しています。この定義に基づき多くのEPRプログラムが実施されている中で、特にドイツのグリーン・ドット制度が導入後7年間でかなりの分野において成功を収めていると報告されています。

日本でも関係者の間ではEPRの法令化が話題に上っており、容器包装リサイクル法の見直し時にこの考え方が組み込まれるのか注目されています。市民グループの間でも、EPRに関する勉強会が開催され始めており、関心の高さがうかがえます。いずれにしても、生産した物には責任を持つという企業姿勢が、消費者が商品を選ぶ際の一つの基準となっていくのは間違いないと思います。

循環型社会のキーワードは3Rという言葉で表され、限りある資源を大切に活用するためにどうすればよいのか、一人ひとりが考え行動していくことが何より重要ですが、そのためにも資源が効率的にリサイクルされる仕組みが整えられなければならないと感じています。集めて使うリサイクル協会は今後も、リサイクルシステム構築のコーディネートを大事な役割の一つとして取り組んでまいります。

皆様方のお力をいただきながら、広く環境保全に貢献できるよう努力してまいりますので、引き続きご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



集めて使うリサイクル協会のNPO法人認証にあたり

全国牛乳容器環境協議会 常務理事 藤倉 靖之

NPO法人認証、おめでとう御座います。

皆さんの理念、皆さんの今までの活動が評価されNPO法人として公に認められたことは、我々関連のある団体として大変うれしい事です。

これまで、ご苦勞されて取り組まれた、再利用の取り組みには、私達全国牛乳容器環境協議会として感謝の気持ちで一杯です。

皆さんの行動力にはいつも頭が下がります。いつも積極的に行動する姿に力強さ、美しさを感じます。

これからも今までの熱い思いを更に高めて活動して頂きたいと思ひます。ご活躍を期待しております。

私達の共通テーマは紙パックです。紙パックは紙が素材です。紙は人間が神様から戴いた理想的環境素材です。人間が意識を持って管理すれば、再生産可能な素材です。紙パックは素晴らしい容器です。又、紙パックから再利用して出来た再生紙は多くの人達の美しい心を含んでいる商品です。

素晴らしい商品の利用推進にご活躍ください。



NPO法人認定おめでとうございます

印刷工業会 液体カートン部会 環境委員会

委員長 横尾 耕一

集めて使うリサイクル協会殿 NPO法人認定おめでとうございます。

印刷工業会液体カートン部会環境委員会7社（アイピーアイ、大日本印刷、東京製紙、凸版印刷、日本紙パック、日本テトラパック、北越パッケージ）より、お祝い申し上げます。



牛乳パックで代表される「アルミを使用しない紙パック」は、リサイクルのための社会的インフラも整備されてきましたが、清涼飲料や酒類などで広く採用されている「アルミ付き紙パック」は、牛乳パックと同等の良質な板紙を使用しているにも拘わらず、まだまだ、大半が紙ゴミとして焼却されているというのが現状です。紙パック製造メーカーである我々は、循環型社会構築のため、貴協会の更なるご尽力を必要としています。

市民団体の貴協会と業界団体内部組織の当環境委員会とが、「アルミ付き飲料用紙パック・リサイクルプロジェクト（略称：アルミプロジェクト）」の活動を共にし、丸5年になります。アルミプロジェクトもお陰様にて、昨年「酒パックリサイクリング問題研究会」を立上げ、酒造メーカー、小売酒販店、収集運搬事業者、再生紙メーカー等にご参加頂き、大きなリサイクルの輪を作ることが出来ました。これもひとえに、貴協会が牛乳パック再利用の様々な活動などで培われたノウハウの賜物と、感謝しております。

やるべき課題が山積みです。

貴協会の益々のご発展を祈念し、当環境委員会からのお祝いとさせていただきます。

新たなスタートを切るNPO法人集めて使うリサイクル協会への期待

紙製容器包装リサイクル推進協議会 事務局長 荒木 亨

「集めて使うリサイクル協会」が特定非営利活動（NPO）法人になられたこと、本当におめでとうございます。これも一重に和田代表理事をはじめスタッフ皆様の地道な真面目な活動、取り組みが評価されたものと思います。



私どもが、貴協会と最初に接点が出来、交流を持ちましたのは、2002年の始めに貴協会が発行された調査報告書をもとに情報交換会を行ったのが最初だったと記憶しています。2000年4月から容器包装リサイクル法が完全施行されその他紙製容器包装

（以下紙製容器包装と言う）の指定法人ルートによる再商品化もスタートしましたが、その量が計画量に対し非常に少なくその原因を掌握する為、当推進協議会でも独自に実態調査を行っていた時で、手探りで市町村を訪問し担当者や古紙問屋さんにはヒアリングを行い、紙製容器包装の資源物として収集された物の組成分析調査を行ったりしている最中でした。

貴協会発行の調査資料を拝見したとき、現地を訪れ調査されたその内容に強い感銘を受けたのを今でも思い出します。やはり自分の足で現場を見ないことにはその実態を掌握できないと言う思いに共感を覚え、私どもの調査方法に対しても意を強くした思いでした。

その後も貴協会主催の大阪のシンポジウムにパネラーとしても出席させて頂き、又「牛乳パックの再利用を考える全国大会」を通して会に参加し、新たな人との出会いがあったこと、新たな交流の場が出来たことをうれしく思い感謝しています。

私の所属します当推進協議会は紙製容器包装の特定事業者で構成された任意団体です。時には貴協会とも意見が対立することもあるかもしれませんが、3Rを推進しリサイクルを促進していくという目的は同じと考えますので多いに議論が出来ることを期待しています。

貴協会がNPO法人となられ新たなスタートを切られたことを期に、種々のリサイクルの場からの報告をいただき、又リサイクルの場に、より近い皆様の活動に接する事が出来ればと期待致します。

今後とも私ども微力ですが貴協会のNPO法人としての活動に協力出来ればと考えています。種々の場での活躍の程、期待激励する次第です。

第5回酒パック・リサイクリング問題研究会 報告

●とき:3月4日(木) 施設見学会 13:30~14:30 研究会 14:30~16:00

●ところ:株式会社水口テクノス リサイクルセンター&会議室

●参加団体:国税庁、印刷工業会、大日本印刷㈱、東京製紙㈱、凸版印刷㈱、日本紙パック㈱、日本テトラパック㈱、北越パッケージ㈱、霧島酒造㈱、月桂冠㈱、沢の鶴㈱、三和酒類㈱、宝酒造㈱、白鶴酒造㈱、水口小売酒販組合、日本山村硝子㈱、集めて使うリサイクル協会 以上 17団体 29名

滋賀県甲賀郡という都心から離れたところでの開催であったにもかかわらず、多数の参加を得て実施することが出来ました。予定しておられた小西酒造さん、日本盛さんが急用のため残念ながら不参加となりましたが、前日まで日程調整していただいていた国税庁からも酒税課の新谷さんがわざわざ駆けつけていただきました。さらに地元の水口小売酒販組合副理事長もこの催しの事を聞きつけ急遽参加され、また週刊循環経済新聞の取材などもありこの活動に対する周辺の関心の高さを実感しました。

今回は、まず㈱水口テクノスリサイクルセンターで、酒パックの中間処理(裁断・洗浄)システムの見学とリサイクルセンターの諸施設(生ごみの堆肥化システム)などを見学しました。酒パックの中間処理(裁断洗浄)では、実際に酒造メーカーから提供された充填損紙が見事に裁断され綺麗に洗浄されて、ほとんど臭いも無く製紙原料として再利用するに十分な処理がなされる様を見ることが出来ました。酒の主要産地「伏見」に近いということもあり、今後の酒パックリサイクルの広がりが期待できます。

さらに研究会では、目前に迫った「容器包装リサイクル法」見直しに向けての状況説明、情報交換を行ない、当面この酒パックリサイクルの自主的な活動をさらに推し進めていくことを確認しました。



ALMprj.'03 報告

集めて使うリサイクル協会が、印刷工業会液体カートン部会の委託により実施している「アルミ付き飲料用紙容器リサイクルプロジェクト(ALMprj)」も、丸5年を終えました。2003年度は、次のような成果を得ることができました。

- ①今年度のプロジェクトで町の回収拠点「エコ酒屋」が一挙に拡大し、市場からの酒パックリサイクルシステムが概ね全国対象のものとなった。
- ②酒パック・リサイクリング問題研究会にボトラーの正式参加が実現し、まだまだ参加社は少ないものの、とりあえず研究会としてのメンバー構成が整ってきた。
- ③未洗浄紙パックの中間処理場が滋賀、兵庫に誕生することになり、灘、伏見の酒造メーカーだけでなく関西を中心とした清涼飲料ボトラーのこれまで産廃処理されていた未洗浄紙パックのリサイクルが可能になった。
- ④各種イベントに参加すると同時に、業界紙、一般紙誌への情報発信が、エコ酒屋拡大に大きく寄与した

■ エコ酒屋拡大活動

- ・4月:行政の協力のもと小平市で10店舗誕生
- ・5月:宮崎小売酒販組合……総会で酒パックの回収決議。エコ酒屋15店舗から48店舗に拡大

(次ページへ)

- ・5月29日:京都市役所で「エコ酒屋」説明会
- ・6月:日本山村硝子びんカレット回収ネットワークによる、酒販店への募集ツール配布スタート
- ・10月16日:全国小売酒販組合中央会に協力要請……「酒販通信」12月号、1月号に記事掲載

※ 上記活動の結果 ALMprj.'02 で全国3県21店舗だった「エコ酒屋」が
ALMprj.'03 には 1道1都2府19県102店舗に拡大

■ 酒パック・リサイクリング問題研究会

- ・6月26日:酒類紙製容器包装リサイクル連絡会総会において酒パック研の説明と参加要請
- ・7月16日:家庭紙工場見学……コアレックス㈱東京工場(神奈川県川崎市)
第3回酒パック研&懇親会
- ・10月7日:第4回酒パック研&懇親会→右写真
(大阪産業創造館)
- ・3月4日:未洗浄紙パック中間処理施設見学
(前ページにて詳細報告)



■ 未洗浄紙容器の中間処理

- ・(株)水ロテクノス(一般廃棄物処理業者)……滋賀県甲賀郡
- ・(株)ウエダ(洗びん業者)……兵庫県加古川市

上記2箇所に裁断洗浄機が入ることとなり、伏見、灘の酒造会社の充填損紙リサイクルへ環境が整ってきた。

- ・清涼飲料メーカーの動き

ALMprj.の活動を知った各種飲料メーカーから、充填損紙リサイクルの相談等も持ち込まれている。

今後、本プロジェクト受け皿製紙工場への回収ルートを整備すると同時に、上記中間処理施設などを活用することによって、今まで焼却処分されていたアルミ付飲料用紙パックのリサイクルが十分可能になる。

■ 情報発信活動

<イベント出展 等>

- ・4/9(水)~12(土) 名古屋食品加工・包装&リサイクル展
(名古屋パック2003) 名古屋市中小企業振興会館
- ・6/18(水)~21(土) A-PACK2003 大阪
インテックス大阪
- ・8/23(土)24(日) 第17回牛乳パックの再利用を考える
全国大会 in 水俣 水俣市文化会館/もやい館
第6分科会 ビンもパックも再利用……街の回収拠点
「エコ酒屋」の取り組み
第7分科会 全国情報交流会……ALMprj.の活動報告
- ・9/3(水)~6(土) NEW 環境展2003・大阪
インテックス大阪
- ・11/8(土)9(日) 大阪府エコフェスタ2003 万博記念公園お祭り広場
- ・12/11(木)~13(土)エコプロダクツ2003 東京ビッグサイト→右上写真



<媒体露出 等>

- ・4/5 東京新聞/読売新聞/朝日新聞/産経新聞 4/21 日本消費経済新聞……小平市エコ酒屋
- ・北日本新聞 12/19 北日本放送テレビ……富山:立山酒店 ・週刊循環経済新聞……水ロテクノス/ウエダ
- ・酒販通信 12月号/1月号……ALMprj. ・日経エコロジー3月号……ALMprj.

★2004年度は、これらの成果を踏まえて特に次の2点を重視した活動を行っていく予定です。

- ①主に点として広がってきた「エコ酒屋」を、面として拡大する。
- ②酒造メーカーだけでなく清涼飲料メーカーを含めた事業系廃棄物のリサイクルを意識的に追求する。

会員募集中!

入会金は不要です。循環型社会構築を目指す私達の仲間になってください!

会員区分	年会費(非課税)
団体	正会員 60,000円
	賛助会員 10,000円
個人	正会員 6,000円
	賛助会員 1,000円

当協会ホームページでは、リサイクル商品の販売も行っております。(お買い得の月替わり SALE 商品もあり!)
どうぞご利用ください。

<http://www.r-kyokai.org/>
E-mail:info@r-kyokai.org